

## は し が き

この研究報告は、当教育センターの科学教育課所員と研究協力員及び理科長期研修員が平成元年度に取り組んだ研究の一端をまとめたものであります。

平成元年3月に新しい小学校学習指導要領が公示されました。理科の指導においては直接経験を重視し、問題解決の能力を育てることや、科学的な見方や考え方を養うことなど、これまでの理科教育で大切にしてきたことを一層重視するよう求めています。

理科は自然を対象として学習する教科です。このことは、子供が対象に働きかけ、対象から子供自身が学びとるということであり、学ぶ主体は子供であるということです。このような学習が成立するには、子供と教材とのかかわり方がとても重要になってきます。すなわち、自然に接する中で子供が問題を持てるような教材でなければなりません。どのような教材を準備するかはひとえに教師の手にゆだねられています。学習の成立は、教師が、子供とのかかわりを見通した上で教材を選択するかどうかにかかっています。そして、そこにこそ、教師の役割があると考えます。

当教育センターでは、これまで、子供と教材とのかかわりを深める指導のあり方や身近な素材の教材化に取り組んでまいりました。今年度も、以上の点に留意して研究を進め、その成果をまとめてみました。

また、低学年理科の廃止に伴い新設された「生活科」についても、これまで理科で扱ってきた教材との関連を考慮しながら研究を進めて参りました。その成果の一端を、理科の研究報告と合わせて収録いたしました。報告の中には、研究の緒に就いたばかりのものもありますので、率直な御意見や御批判をいただければ幸いです。

最後に、これらの研究にあたり、授業研究の機会を与えてくださいました当該校の校長先生はじめ、御助言くださいました諸先生方に、厚くお礼申し上げます。

平成2年3月

新潟県立教育センター所長

海 藤 是 夫